

今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 富山いずみ高等学校アクションプランー1ー		
重点項目	1 学習活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>家庭学習習慣の確立</u> ・<u>「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の推進</u> 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科では生徒の進路目標が多様であり、選択した科目に応じた家庭学習の量や必要な学力が様々であることから、教科ごとに成績にばらつきが見られる。 ・進路や学習に対する目標が明確でない生徒は学習へ向かう姿勢が受動的になる等、学習意欲にも影響を与えている場合がある。 ・「協働力」が十分身についている・ある程度身につけていると回答した生徒の割合は、昨年度3月のアンケートで2年生が約70～60%、1年生は約70～45%。「実行力」は2年生は約50%、1年生は約40% 	
達成目標	①家庭学習の振り返りアンケートにおいて <ul style="list-style-type: none"> ・計画を立てて学習している ・課題やそれ以外の学習に取り組んでいる ・テストの見直しを行い学習改善につなげているの各項目のポイント（10点満点） 	②12月実施のアンケート （IGP：いずみグラデュエーション・ポリシー） 「協働力」「実行力」のスコア （十分身につけている・ある程度身につけている）
	3つの項目の平均点 5.5点以上／10点満点	「協働力」80%以上 「実行力」60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・担任等による面接指導を充実する。 ・小テストや課題の提示を、評価の場面や方法を工夫しながら計画的に実施し、学力の伸長や定着を図る。 ・小テストや考査の見直しを促し、学習効果を上げるために自分の生活リズムや学習方法、学習時間について生徒自ら考えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合学科～1学年「産業社会と人間」と2学年「総合的な探究の時間」を通じて社会人や地域の方々、または学校内の人々と協働しながら企業課題や社会課題、興味課題に取り組む主体性や態度を育てる。 ・看護科～主に3学年「臨地実習」（病院・保育所・特養老人ホーム）を通じて病院や施設の方々や地域の方々、または学校内の人々と協働しながら、臨床看護を行うための資質・能力を育て、現場の課題に取り組む主体性や態度を育てる。

令和6年度 富山いずみ高等学校アクションプランー2ー	
重点項目	2 学校生活
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>集団生活におけるルールやマナーについて考え、自律できる力の育成</u> ・<u>交通安全や防犯に関する意識の向上</u> ・<u>校内の環境美化に主体的に努める意識と態度の育成</u>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの校内での使用ルールやマナーを守らない生徒や長時間使用し、学習や睡眠など生活に支障を来す生徒が一部存在する。また、少人数ではあるが安易にSNSに個人情報や掲載し、ネットパトロールから指摘をうけたり、外部より苦情がきたりトラブルに巻き込まれる生徒もいる。 ・昨年度の自転車乗車中における交通事故は9件発生している。 ・「スマホ」や「イヤホン」を使用しながら登下校する生徒も一部に見られる。 ・昨年度途中から校時から「終礼」がなくなり、授業終了後すぐに「清掃」となった。工事の都合で年度途中の清掃場所が変更・追加されたことも影響しているのか、場所によっては「清掃当番の集合が遅い」、「清掃が行き届かなくなった」などの問題が起こっている。今年度も工事のため、清掃分担区域については、年度途中で大幅な変更が予定されている。

達成目標	① 交通安全とスマートフォン使用に関するアンケート回答で「ルールが意識できている」生徒の割合	② 「『清掃』に主体的に取り組む、時間内にきれいにすることができた」生徒の割合。
	90%以上 (1月実施「マナー・規範意識」アンケート)	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・規律委員会主体による活動を充実させ、学校生活や諸活動に対する生徒の意欲を喚起し、規範意識を育む。 ・生徒会と規律委員会を中心に作成した「富山いずみ高校ネットルール」の全校生徒への周知を行い、正しいネットの使用方法について考えさせる。 ・規律委員会（サイクルリーダー）による自転車の鍵かけを呼びかけ、防犯意識涵養を図る。また、ヘルメットの着用についても呼びかける。 ・外部機関と連携し、安全教育に関する講演会を企画する。 ・生徒自身が学校生活の在り方について考え、自分たの課題について主体的に取り組む態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスで清掃当番が授業終了後速やかに清掃場所に移動するよう指導する。 ・清掃指導者は、清掃の手順および清掃後の理想的な状態を具体的に示す。 ・生徒保健委員は定期的に校内全体の清掃状況について点検を行う。 ・生徒の意識・行動の実態を把握するためのアンケート調査を行う。

令和6年度 富山いずみ高等学校アクションプランー3ー

重点項目	3進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面接指導の充実 ・ 3年生への進路支援の充実 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会とのつながりについての意識が希薄であり、進路や学習に対する目標が明確でない生徒、あるいは狭い視野でしか物事を捉えることができていない生徒が散見される。 ・ 家庭学習が習慣化していない生徒、また、学習態度はまじめだが基礎学力が定着していないため学習に困難を感じている生徒が見られる。 ・ 3年総合学科では、1，2年生の指導をふまえて、個々の進路実現に向けた支援として、小論文や面接指導など志望先に応じた指導を充実させることが求められている。 ・ 大学入試制度改革への対応として、1年「産業社会と人間」、2年・3年「総合的な探究の時間」などを利用して、生徒が自分の考えをまとめて「話す・書く」などの、表現力を深化するための取り組みが始められている。 	
達成目標	① 面接指導の充実 ・ 面接を通して「自己理解が深まり主体的に進路を考えるために役立った」と回答する生徒	② 3年生への進路支援満足度 ・ 3年間の進路支援のための取り組みに対して「満足した」と回答する生徒
	80%以上	平均55%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路希望調査、学習時間調査、進路学習の振り返り、学習成績記録等を有機的に結びつけ、面接指導に活かす。 ・ 面接週間期間は生徒面談を優先するため校時・行事について配慮する。 ・ 教科担当者との面談も必要に応じ設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般選抜を含め、小論文指導、面接指導など、志望先に応じた指導体制の充実を図る。 ・ 過去問や受験報告書等の蓄積データをデータベース化し活用できるようにする。 ・ 生徒の進路志望と外部模試の結果分析を行い、授業改善や進路指導に活かす。

重点項目	4 特別活動		
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部を中心とし、生徒全員による主体的な学校行事の取り組みを支援する。 ・IGPを浸透させ、各部活動やホームルーム、委員会活動に協働的に取り組む態度を育成する。 ・「朝読書」を継続する。 ・統一HR「読書の時間」で友人の読み方を知り、読書の面白さを味わう場を設定する。 ・「LIBRARY」の発行や企画展の実施等、図書委員会の活動を充実させ、幅広い読書を推進する環境づくりに努める。 		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校行事に対する充実感が高い一方、参加意識や関わり方が薄い生徒も見られる。生徒一人ひとりが主役であることを意識させるとともに、積極的に企画運営に携わることで充実感を一層向上させたい。 ・部活動やホームルーム活動、委員会活動では、決められた役割を確実にやり遂げる生徒は多いが、グループ全体の目標や役割に対して協力して取り組もうという態度に物足りなさを感じる。目標達成や諸問題の解決のために仲間や教師と協働して取り組もうとする態度を育成したい。 ・朝読書により生徒たちは読書を身近なものにとらえている。しかし、残念ながら読書習慣にはあまりつながっておらず、家庭での読書量が少なくなっている。 		
達成目標	①各学校行事への取り組みに対する充実感、達成感	②IGPを意識したHR活動を取り組みことができたか。	③2学期末において、朝読書、朝読書以外も含めて、充実した読書ができたとする生徒の割合
	90%以上	80%	50%以上(1・2年生)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートを実施し、生徒の意見や要望を取り入れることで、参加意識を高める。 ・生徒議会や生徒総会等を活用して各行事の内容を生徒に周知するとともに、広く意見を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス目標をIGP「傾聴力・想像力・思考力・発信力・協働力・実行力」の中から選ぶことに限定し1年間取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書履歴調査に各学期の読書に関する目標を周知し、まず、落ち着いた雰囲気の中で一日をスタートし、朝読書の時間は集中して読書に取り組むようにする。各学期末に生徒が振り返る機会を設定する。 ・2学期末においては、充実した読書ができたと言えるように、各自が目的意識をもって読書に取り組むようにする。

重点項目	5 その他(看護科教育の充実)	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師国家試験合格及び進路実現を目指した学習及び進路指導の充実 ・専門教科への興味・関心の向上及び職業観・社会人基礎力の育成 	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学年によってはクラス内で学力の二極化が見られ、生徒に合わせた学習指導が難しい。 ・看護師養成校として看護師国家試験合格は必須であり、合格率100%を目指している。 ・卒業後就職以外に保健師・助産師・養護教諭養成機関への進学や大学編入希望者がいる。 ・看護職者として社会人基礎力及び倫理観の育成が求められている。 	
達成目標	①進路実現 看護師国家試験合格率・進路達成度	②看護科意識調査での満足度 専攻科修了生への「看護科で学んで良かったか」「学習面・進路面」の問いに「満足した」と回答した生徒
	100%	80%以上

<p>方 策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験対策として、研修会に参加し、113 回国試問題の分析による指導方法の工夫を図る。 ・ 外部模試や実力テストの事後指導と共に早期に必修問題に取り組み強化していく。 ・ 「解剖生理」「病理」などの基礎的知識定着に向け、授業改善、進度の工夫、評価方法の検討を継続していく。 ・ 高校 1 年次から継続的な学習習慣を確立し、学習時間の増加と生徒の習熟度に合わせた指導法を工夫すると共に、成績下位者への個別指導を行う。 ・ 就職試験対策講座を活用し、早期に進路決定させ、計画的に面接・小論文指導及び進路懇談会を実施する。 ・ 大学編入者、保健師・助産師への進学希望者の実態把握、校内での指導体制の強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学時より看護職者としての自覚及び社会人基礎力、倫理観の育成や看護教科に対する興味・関心を高める教科指導法や看護科行事を工夫する。 ・ 意識及び進路調査を分析し、生徒が抱える問題や悩みを把握し面接等の充実を図る。 ・ シミュレーション教育を取り入れた演習の充実を図り、演習で身に付けた技術を臨地実習で活用できるように、生徒の学びや気づきを引き出す関わりをしていく。 ・ 合同ホームルーム及び自治会交流会などでのピアサポート活用による異学年間交流を充実させる。 ・ 臨地実習での振り返りを確実にを行い、達成感とともに自己の課題を明確にし、課題解決能力に繋げる。また、自己効力感や発信力を高める指導をしていく。
------------	--	---